

18/7/19 名古屋城天守閣部会(名古屋市民オンブズマンメモ)

10:00

蜂谷主幹:司会

市長より挨拶

河村市長:おはようございます

今日が一応の区切り レポートを作って頂いて文化庁にあげるようだ

品の悪い男 やってまいりました

僕の仕事 選挙 名古屋市民の気持ち 代弁するようなたいした人間ではない

仕事でもある 本物のお城を作っちゃ ものすごく強い

400年名古屋に住んでいるが、名古屋に住んでいる人 名古屋の宝

生活は苦しかったと思うが、誇り 江戸城、大坂城 焼けてなし

333年間誇りだった

図面があることを知らない人も多い

ぜひ本物に復元し、1000年持つ宝にしよう

成り代わって言う立場

文化庁には必ず言っている 気持ちを是非わかって欲しい

麓さんお見えになっている NHK金とく 心を打つものがある

法隆寺から続く木造建築の到達点

近く 値打ちが 今はコンクリート

これほどの木造建築物は世界にない すごいこと

現代の技術でもう一回復元する

自分で加子母村 一泊した 400年の木がたくさんある

命をいただいて作っていくのか

すごいこと また生えてくる

樹齢1200年ヒノキが残った 崖が深いから

笹の大量枯れ死に

石垣 丁寧に話をさせて頂いた

僕は理解頂いたと思っている 文化庁からもよく話をしたいわれている

バリアフリーの方も、24日に技術者の皆さんが集まって、団体よおけお見えになって、

姫路城・松本城も上に登れるよう目標

名城大学の先生 世界初めて ものすごく注目される

おもてなし剛力隊 コミュニケーションが取れる

事故があったとき安全に下ろせる

ハイテクをミックスしながら 丁寧に

これからもお世話になる
名古屋に住むものとしては 1000 年は持つように
市民に成り代わってお願いする

蜂谷主幹: なお、市長は他の業務がありここで失礼する
出席者紹介 瀬口・川地・西形・麓・古阪・三浦・洲崎
広沢副市長、渡辺観光局長ら
進行は座長に一任

瀬口: はじめます
資料 1 の説明を

10:15
竹中: 資料 1

瀬口: ご意見は
特にな
基本計画書(案)
大量 全部説明されても困る
文化庁指摘により内容更新した項目を

名古屋城: 概要編 1 章 3.4
以前天守閣部会に図り、文化庁に提出、復元検討委員会に報告 2 回
5 月までの指摘を受け、あらためたところを説明する
資料 2 まとめ
資料 3
資料 2 報告に対する意見 2 月 5 日 4 点
回答要旨 3 月提出
不十分であると考えている点がもう一度 7 月に提出しようとしている 2 点
5 月に頂いた意見 3 点指摘
石垣については、基本計画 2 章で説明
それ以外について説明する
1. 解体するのはなお議論を尽くす必要がある
市民の議論を加えた アンケート結果回答
不十分 G10 ページ-G12 ページ
現天守閣を正當に評価しよう 右下 建築物としての評価

技術が薄かった 建築物として

1.史資料が豊富のみ

G24 ページ 耐震補強と木造比較 メリットデメリット

どちらが優位性があるか

現天守を復元する

ポイントとなる論点を明確にした 理解の促進、歴史まちづくり、
意義と評価、石垣への影響

基本的な方針は変わっていないが、論旨を明らかにした

木造復元の方がメリットが高い

今後これからの工夫で克服できる

名古屋市の方針として木造復元

記録・記憶を残す記述を増やした

5.外観復元・博物館機能の背景

城戸先生について記述を書いた

G7 ページ

資料で示すことはできなかったが、状況からどうしてかを推測

戦後すぐから「科学館、博物館に」主張

内部を障壁画の保管場所として考えていた

時代背景 文化的なものが求められてきた

大きな理由を見つけられなかったが、当然のこととして計画されたのではないか

6.SRC造技術の発達について

G8 G9 G10

一部章立てを変更した

10:31

瀬口:ご意見・質問を

特にないですか？私から

資料2 3 ページ目 SRCで作られるのは、大阪城は古川重春 今後SRCを作る

今後木造のイミテーションという考え方

名古屋城もイミテーションという意味づけではないか

名古屋城:木造のイミテーションとして記述をした、というものではなく、

シンボル 市民のシンボル、復興のシンボルとして果たすもの

復元が重要なもの 古川先生

瀬口:金閣もシンボル でかくないから木造

大きいと木でできない

同様の考え方なら、木造のイミテーションを名古屋城で実現した でよいか

城戸さん いろいろな考えを聞いている

博物館にしよう 名古屋市が決めてから

最初は科学館

「自然なことではなかったか？」そうではない

戦後観光文化で生活していく

名古屋市も文化施設を作ろうという動きがあった

国宝障壁画が残っているから、どこかに置かないと行けない

だからRCを作った

名古屋城復元が目的で、中に博物館にしようとしたのか

とりあえずRCをつくって、博物館機能を持たせる？

理解が違うような

変わらないですね

自然なことではない 名古屋市民も商工会議所も要求した

名古屋市も意思決定した

自然なんて事はない

名古屋城：自然なことではなかったか？と推測

城戸先生 戦後すぐからそう言っていて、資料がなかった

瀬口：城戸さんは復元を考えていない

金閣寺は復元賛成している 同じ時期

歴史的建造物の復元 なぜ考えたか推測すると、住宅も全部鉄筋コンクリートにしろ

名古屋城に飛行場を作ろうとまで言っている

そのままにとっちゃいけない

また以降はいらない

城戸さんの意見だけ淡々と述べるのでよいのでは

三浦：今更ですが、大阪城が登録有形文化財になっている

文化庁 暗に登録有形文化財にしてはとっているのではないか

地震に耐えられない

耐震補強には莫大な金がかかる

寿命が延びるわけではない

10年前あと40年 あと30年 耐用年限がくる

木造の方が耐用年限がはるかに延びる

歴史がよくわかる
根本的な話が文化庁に伝わっていないのではないか
2回にわたって同じように指摘されないのではないか
耐用年限について書いては

名古屋城: 検討状況についてはG18.19あたりに書いてある

三浦: たぶん文化庁は読んでいない
伝わっていない

瀬口: 書けばよい訳ではない 伝わるように努力しないと
RCがなくなる?

古阪: 違和感

城戸、古川 尊重するのか?
RC 耐火構造は政府の構造
コンクリートは長持ちしないだろうというように変化
高強度コンクリートもできるように
固有名詞を書くのはどうか
木造 長年持ってきた 復元 もって行くのは文化庁の理屈
いろんな検討した結果 単的な説明 相手方には伝わる
固有名詞を出すのは賛成・反対がでる

瀬口: 基本的に賛成だが、当時どういう評価するのかは先生の名前を書くのはよい
なぜRC建物か 名古屋市がどう考えたか
城戸さんがどういう影響を与えたか
ちょっと書きすぎ
文化庁の質問として

名古屋城: 1度目指摘 2度目指摘 瀬口座長から指摘を受けた
1度目 城戸先生色濃くでた
2度目 個人を控えめに書いた

瀬口: 「城戸久の影響が大きい」→文化庁は城戸について質問した
書きすぎだと思う
時代的なことを書いた方がよい

修正をして頂かないといけないとおもう
文化庁が誤解しないような書きぶりを

10:47

瀬口:天守台石垣にしましょうか 構造にしましょうか
どっちでもよい 安全
2-1-まで説明を

名古屋城:天守台石垣の保全と安全対策

資料 4 石垣部会に図ったまとめ

石垣部会の指摘を踏まえて一部書き改めたもの

G42.44 差し替え 赤字のところは石垣部会の指摘を受けて書き直したもの

現況把握する 調査中

文化庁復元検討委員会 保全の方針について示されていない

史実、測量、発掘、地盤

資料 27 ページから

瀬口:報告なので簡単に

名古屋城:石垣カルテ 足場がかかっている 現在調査中

穴蔵部分についても同様 G38

発掘調査 G39-41

劣化調査 G42 ページ

石垣部会 危機感の認識が足りないのではないか

劣化状況のまとめ 北面のはらみだし 記述を増やした

孕みだし指数 指数の扱い 局所的反映していない 考えている

元の数値を書いている

G44 ページ 保全の方針

優先度が高い部分 それぞれ北面孕みだし 戦災焼けたところ

1 段階から 3 段階 保全策

石垣部会の先生から意見を頂いた

反映できる部分は反映した

10:55

瀬口:ご質問ご意見を

西形:北面様子がよくない

孕みだし指数 4.9 現実的にはもう少し大きい 倍近くあるのではないか

石垣の保全に関しては「将来考える」

現実には非常に北面の状況がよくない

天守部会としては、天守を再構築している間に変状が大丈夫か

工事で石垣に影響はないのか？

「押さえ盛り土でやる」

現場を見せて頂くと押さえ盛り土では高さが足りないのではないか

上部分まである可能性

工程的にどうしようもない、天守閣を先に

天守閣部会としては、石垣の保全をもう一度考える必要がある

内部の構造 はねだしはあと

石垣の不安定 変状の激しい部分の対策 もし後にするなら考えて

名古屋城:あとで工事中の管理を説明する

瀬口:施工中のところも関係するので、あとで説明する

名古屋城:2-2

基礎構造

解体時石垣

復元時石垣

G41-55

基礎構造 石垣保全を前提

基礎構造に求められること3つ

・史実に忠実に

・観覧者の安全

・石垣に負担をかけず、支持する

石垣の取扱3つ 石垣の保全を前提

石垣を取り外し、掘削する 戦後積み替えの範囲でやる

江戸期の姿を現代に残す 仕方なく掘削しないといけないものは基本は外さな

い

外す場合は取り外す 現地調査をしっかりと基礎構造 最小限に

基礎構造についてA案B案C案

A案 ケーソンからマットスラブ・跳ね出し構造

B案 江戸期の石垣が残っていれば保存

C案 深礎杭

江戸期の石垣が残っていると判明すればB案

G46 安全対策4つの区域

穴蔵(天守閣の中)、東面、内堀側、橋台東面

穴蔵はネットかアンカーで支える

東面 落石防止ネット 景観上の問題はあるが

橋台東側 立ち入り禁止エリア

現天守解体+穴蔵石垣+外部石垣取り外し

木造復元+穴蔵石垣復旧

復元終了後、外側石垣保全修理

G47 現天守解体に伴う天守台石垣への影響と対策

加重がなくなる→リバウンド 影響がないのか？

石垣上部リバウンド 約1ミリくらい 基本的には影響がないのではないかと

地盤調査 検証を続けたい

実際解体を行う際はモニタリングを

G48 解体工事 落下物の影響、石垣への振動 石垣に影響を与えないか

切断工法 ブロック状に切ったものを外に搬出する

振動を与えない 進めていくように 常時観測していく 振動計 モニタリング

ワイヤーソーイングできないところもあるので、圧砕工法も

G49 天守閣木造復元に伴う石垣への影響

石垣をいかに保全・保存しながら工事を進めるか

解体・復元 素屋根 構台・棧橋

内堀の石垣保護対策無し あり

集中荷重がかかる 軽量盛土 内堀部分 荷重を分散させる

石垣にはできるだけ影響を与えないように

北面 S字 軽量盛り土で覆われない部分 詳細に検討してご相談をしたい

解体から合わせて石垣のモニタリング 工事を進めていきたい

11:13

瀬口:ありがとう ご意見を

西形:はねだし工法でやる 問題はないと思う

一つだけ はねだしの影響を確認したい

石垣に入れるとどうい影響があるのか

マイナスの影響がどうであるのか 地震時

そういうことがないか

もう1点 ずっと思っていたが言わなかった
はねだし工法 外側の石垣を解体せずにやれるのか

名古屋城:基本方針として、解体しないようにしたい
おそらく解体が必要になってくる
戦後に積み替えした範囲でおさえたい 検討
できない場合は協議 江戸期は触らないように
戦後ケーソンを埋めたときに角石 中央部分は積み替えをした
角石に近い部分は江戸時代のものが残っている

西形:どうしてもそうなる
天守閣部会としてはしょうがない
石垣部会にも了承をえてもらいたい

名古屋城:わかりました

古阪:今のことと関連
解体をする 工期的な問題
先週石垣を見た 100数十枚 子どもがよろこぶ いろんな写真
接近してわかる
職人の技がわかる
我々以上の歳の人はそのなものか
未来の人 一つずつの思いが語られている石がある
復元の子どもの向けの本を作る
不幸にして地震で壊れた場合も役に立つ
地震は必ず来る 東南海 相当なもの
覚悟した上で天守閣を先に ごめんなさいではすまない
プロポーザルだ、というわけではなく、重要なものを
両面考えて欲しい

西野所長:北面石垣 気になる
今回の調査で認識をさらに高めた 詳細調査を始めた
石垣部会の先生方にも相談しながら早急に対策
それにも時間がかかる
天守の復元をしてから速やかに石垣修復を行う
西形先生ご指摘 その間の石垣崩れない対策を精緻に

未来に残せるように

瀬口: G46 工程を書き直すということですね

西野所長: 工程は変わらない

どうすればよいかは速やかに考えたい

しっかりとした安全対策をしたい

瀬口: いずれにしても書き直すでしょう？

反映させた方がよいと思う。

応急的なものであれ、保全対策を取りながら、というのは入っていない

西野所長: 盛り込みたい

三浦: G45 右側 A案 賛成

B案 穴蔵石垣が分断される

文化財 基礎にコンクリートを入れる

根石を据え直し

もし見つかったら丁寧に取り外し、Aのようにしては

名古屋城: そのような工法も含めて考えたい

三浦: はねだし 仕様については今日もうやるの？

G54 ページ はねだしの詳細

問題 石垣の改変になってしまう

天馬石 地震で加速度を受けたとき、飛びださないようにする

このようにするにはよろしくない

詳細を考えてほしい

間違い 木造部分の土台 石垣

木造土台を引き回す 武者走り はねだしのうえにある

外にでっばっている

実測図 1間間隔で並んでいる

直行 外に飛び出している

この図には書いていない

現在の方針では、石垣の細い土台をはねだしで支える

土台の上 がわ石が乗っている

直行して並んでいる太い
もう少しはねだし短くできる
これでは石垣部会が賛同しない
支える土台
工夫をして書き直して欲しい 確認してほしい

名古屋市: 詳細部分が詰まっていない
検討したい

11:28

瀬口: 図 3-1-6 誤解を与えないように修正を

西形: 遠心模型載荷実験装置は

名古屋城: あとで説明する

川地: 基礎構造が根幹部分 石垣部会・文化庁に認められなければ進まない

A案で了解を得てもらいたい

G46 見直しの必要がある

図の 2-3 落石防止ネット 私はどうかなと思う

来場者に対して、危険さを与えるという意味 仮設、穴蔵ネットは未来永劫なる

穴蔵石については、アンカーをする ネットをしないように

立ち入り禁止エリアを設ける

距離が $L=h$ 超高層 落下物 2分の平方根 H

1.12 とか 2.25

この半分くらいの落下物の影響

石垣が落下して、勾配スピード 転ぶということ

$L=h$ 根拠はどこから来ているのか

名古屋城: 立ち入り禁止区域 長さ

$L=h$ 熊本地震で崩れたものを参考

落下石の上に落下して転がる

川地: わかった

瀬口: はねだし加工全部そう

誤解を与えない
石垣との関係は難しい
天守閣部会としてはこれくらいか
次は3

竹中:復元整備の詳細と利活用

時間が押している
構造計画 建築基準法適用除外検討だが、同等の安全性

表3-1-1

復元原案の耐震性能が足りなければ耐震対策

図 3-1-2 はねだし架構

ケーソン基礎をそのまま使う

再利用の可否が明らかになる

はねだし架構の影響 地盤など

遠心模型載荷実験装置 詳細は決まっていないが、遠心力を書けて調査する予定

図 3-1-6 はねだし架構 石垣の取り外しや掘削が必要となる

A昭和の改変部分を中心

やむを得ず他の部分が必要なら取り外す

B 遺構の掘削が必要となる可能性がある範囲

G55 模擬地震波

地盤調査がまだ行われていない 本丸御殿を流用

天守台ボーリングを行い次第行う

解析の前提 本丸御殿の地盤状況

地層にはRC造

図 3-1-15

満足していない 地震の影響 ダンパー補強

図 3-1-18 中地震時

G58-59

竹中:資料 4 ページ分 報道関係者+傍聴者には配布されていない

竹中:安全性を担保する 非常に重要だと考えている

ページ図 3-1-18

右側 木造復元が石垣に与える影響

跳ね出し架構、天守台 重点的に検討

結果を反映したい

既存ケーソン基礎健全性

調査概要と調査結果 割愛

考察 ケーソン基礎 SRC 当初の設計図書 圧縮 45 ニュートン

小天守 40 ニュートン 標準的

残存耐用年数 大天守外側

ケーソン基礎中性化ほとんどすすんでいない

小天守 中性化進んでいる かぶり厚さ進んでいる

中性化抑制対策の可否

本丸側安全対策

落石防止対策 支持面が必要 右の図 地盤アンカー

25メートル程度 砂礫層に到達

橋台 大天守と小天守 橋台直下石垣が崩壊しても避難路に
通路として構造を

プレストレストコンクリート 橋台を保持

石垣の取扱 調査結果を踏まえて

11:51

瀬口:ありがとう 質問は

川地:一番の冒頭のG52 ページ

目標とする構造性能が変わっている

どのような経緯で変わったのか

第5回か 構造性能 大地震時はかわらない

中地震時 1/60 で考えられていた

伝統木造 大きな変形性能を特徴 1/60 でいけるのではないか

耐震性能はある

ただし小天守はないので補強しないと行けない

具体的に 1/60→1/120 になったのか

こまかくいうと、1/120 というと、変形限界以前だと思う

土壁は亀裂 塗り替えが必要になる

1/60 どうなのか

いきなり耐震性能カバー ダンパーを提案されている

可逆的方法 史実に忠実な復元 外せば残る

ダンパーを提案する前提としていろんなことがあると思う

竹中:目標とする構造性能

中地震時 最大層間変形角 以前 1/60→今 1/120

以前は文化庁 耐震診断で 1/60

ただ、建築基準法の枠組み 1/120 という数値

耐震性能としては同等と言っている

建築基準法からひっぱってきた

土壁 損傷について 状況が変わるのではないか

程度問題ではあるが、1/120 でも亀裂が生じる

塗り替え必要かは起こってみないとわからない

差が出るとは考えていない

構造補強 ダンパーによる提案 説明

昨年度からお話 保有水平耐力 地震で解析

その場合と今回とどこが違うのか

地震波作成 天守台の経常的影響 地盤の弱さも加味

特性を解析

保有水平耐力 加味されない

補強をどう検討するか

保有周期を短くすると、地震力が増えてくる

G55 図 3-1-11

大天守 3 秒当たりある

ちょうど真ん中に 1 秒 ニメモリ 3 秒

必要になる地震動 100 回を超える

建物を固くすると固有周期が短くなる

そうすると応答スペクトルが上がってくる

建物の剛性をあげるのは妥当ではない

いわゆる伝統的な木造で、落とし込みやブレースによる補強

建物の剛性をあげることになる

ダンパーによる補強 剛性はあげない 懸垂性能を付加する

補強量が一番少なくて済む

ダンパーが私どもとしては最適ではないかと考えている

川地: 構造の専門家ではない

冒頭の建築基準法が 1/120 ちょっと納得いかない

在来工法は金物でがんじがらめにする

変移が大きくなると崩壊する

今回は金物を使わない 伝統的な仕口継手を使う

えっと思っちゃう

素人の私の疑問

ダンパーについてはこういう方法しかないのではないか

経緯を説明されるべきではないか

報告書に突然ダンパーがでてきて、どこにどれだけ付くのか

4階だけプロットされている

竹中: 大部説明が不足していて申し訳ない

実際の補強量に近づいてきたところでまた図っていききたい

瀬口: 他には

古阪: 素人考え

熊本直下型 縦、横

どう検討されているのか

天守閣というか石垣

京都市西京区 5強

大学 6弱 被害が大きかった

家 横にはあまり揺れなかった

大学 相当横に揺れた

石垣に対してどういう対策ができるのか

天守閣をやった後でやる 安全性を確保しながら

もちろん竹中と検討 ついこの間経験した

ぜひともご検討頂きたい

瀬口: 石垣自体の安全性検討は難しい

石垣部会に検討してもらいたい

よろしいでしょうか

普通は2時間 3時間

あとは避難計画

12:07

竹中: 防災G66 先生配布

評価機関申請中 傍聴者・報道者から割愛

まとめたものをスクリーン

防災避難 1-4 段階それぞれ

レベル1 レベル2 現存天守

レベル3 レベル4 避難時間確保 レベル4 表階段を遮煙

防災計画 本来は北側表階段 南側お成り階段

防災計画主な特徴

持ち込み小さなもの 万一出火 監視カメラ・人的 火災覚知
消火器・スプリンクラー

姫路城のようなもの

出火する危険性のものを小さくする 初期消火で消しきる

ぼや 煙の中を安全に避難する

4 番 入場者数 ぎゅうぎゅうづめにいれるのではなく適切な値に制限する

姫路城 各階 1カ所 もう一カ所

今回の防災計画 南階段 1カ所追加

5 番目 避難施設をわかりやすい配置にする

6 番 自然排煙を行う、上階への煙侵入防止策を付加

7 番 階段が急勾配 歩行速度を通常の 1/2

G73-81 ページ

遮煙区画を行う

8 番 逃げ遅れ者対策を講じる

9 番 天守閣内外 24 防災拠点

10 番 消防隊進入口

1 日 20000 人 1 時間 2500 人滞在安全に避難させる

左側の図 避難施設 緑側 遮煙区画

出火した場合 外壁自然排煙 いったん黄色に

安全区画

表階段 南・北階段 繰り出し板戸 火災で上の階に煙がないように閉める

北側の階段 断面 つながっている 遮煙性能 縦の動線で

各階の避難プラン

最上階については、4 階と一体 メゾネットのように

4 階まで北階段 5 階装飾がある 遮煙は考えていない

格子天井の隙間から煙を抜く

避難計算は割愛 方針 天守を平面的に 2 分割

コア部分とそれ以外 どちらかのブロックに階段がある

出火していない階段で逃げる

左 ぼや 北階段で逃げる

右 北階段 40 畳階段室 検討

北階段で封じ込める

2 つに分けて避難する

現存天守と違って安全な避難経路
最上階の断面図 最上階はもやの部分に天井がある
格子天井 上に板がある 抜かして蓄煙空間とする
表階段を遮煙区画とするとどうなるか パース
壁 板壁 下地 遮煙シートを挟む
板と板の間にゴムを挟むとか
左側 明るいパース 照度これくらい
階段の中に付加の手すり 踏み外し回避
逃げ遅れ者対策 階段で避難できない
18-40 畳くらいある ピンク色 車いす 2台分くらい避難場所
消防隊、誘導者 東京などの福祉のまちづくり条例 マニュアルにある
名古屋城でも考えている
実際に一般のスタッフが行うか 避難補助具 椅子の下にそりが付く
ほかにもいろいろある 有効に使える者を選定する
防災拠点 名古屋城南半分の図
正門北 総合事務所にある 設備について更新を検討
本丸御殿北 警備室をサブ拠点
小天守地階に監視室を
本丸の中に消防隊が入れるか？
正門 西ノ丸 表にのもんを通して消防隊
はしご車高さと幅がある 天守まで寄りつける
名古屋市消防とは協議している
本丸での消防 1月26日 文化財防災デー はしご車が東側まで寄りついている
天守の方 縦格子があって、窓から侵入できないのではないかと
外せるような加工が残っている
当初は屋根のメンテナンスのため？加工
消防隊が来ても、縦格子を外して侵入できる
本丸御殿と小天守 延焼のおそれ
平成3年建設省 ドレンチャーを設置するようと言う指針
今回は消防基準より放水銃5台設置でカバー
防災避難計画は以上

12:29

瀬口:名古屋市消防局と打ち合わせしている

川地:かなり詳細

協議は大詰めと理解してよいか

竹中: 日本建築士センターと数回打ち合わせをしている

評価書はまだ時間がかかる

川地: 防災の先生方 日本を代表する

2-3 気になるところがある

1日 20000人 9-5 時平準化 大前提

在館時間が1時間

去年12月 竹中が在館調査をみると、必ずしも平準化していない

データを見ると、午後2時半-4時 1.6倍くらいに来る

人が集中する

2500人とするのなら、1日20000人は厳しい

在館者人口は3000人を超える

大前提の在館者密度0.5人を超える かなり厳しい

名古屋市と協議をしながら2万人を何が何でも確保するなら時間も調整しないと

大阪城 今の時期は9時~7時まで時間延長

基本は9時~5時

そういうことを含めて、何が何でも2万人をいれるのなら検討

基本的な考え方 これしかない

竹中調査 一番来場者が多い 歩行困難者2%を占める

車いすを含めて

2500人いると50人各階にいる

階段を降りるのは考えられない

北側階段を囲う安全区画を取るの絶対必要ではないか

区画された階段が火元なら、それ以外が安全区画になる

ただ気になるのは、逃げ遅れ対策 何カ所か出てくる

積極的に安全 各階にとどまって頂く

言葉はどうなのか

絵で説明があったが、水平の引き戸 自動か人的か 重要になる

全体の人員配置も含めて防災計画は重要

瀬口: 平準化と防災上のコントロール

ならして入場者

よろしいでしょうか

防災関係は配管 景観がよろしくない

別段階

遮煙紹介をされた

全体を通して何かあるか

本日市長も一応の区切りと言っていた

よろしいか

天守閣プロパーの問題は、大きな問題はなかった

石垣と天守復元 石垣プロパーのところは総合事務所で検討

史跡の中での木造復元

それを忘れないで 最終的には通らない

特になければ終わり

12:38

蜂谷:これを踏まえて文化庁に提出したい

ありがとう